

平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-9号)

農林総合研究センター
平成27年7月28日調査

気象経過

- 7月第4半旬の平均気温は金沢、輪島とも平年並（金沢：+0.4℃、輪島：+0.1℃）となった。日照時間は金沢で平年より少なく、輪島ではかなり少なく（金沢：73%、輪島：49%）、降水量は金沢で平年より少なく、輪島ではかなり少なかった（金沢：68%、輪島：2%）。
- 第5半旬の平均気温は、金沢、輪島ともかなり高く（金沢：+1.9℃、輪島：+1.7℃）となった。日照時間は金沢、輪島ともに平年並（金沢：110%、輪島：94%）、降水量は金沢で平年よりかなり多く、輪島は平年より多く（金沢：190%、輪島：135%）なった。
- 7月21日に平年より3日早く梅雨が明け、7月23日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は平年並または高い確立とも40%となっている。

生育概況等

【本田の生育】

1. 出穂期

ゆめみづほの出穂期は、平年に比べ3～5日早く、加賀平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加賀地域で出穂期となっているほ場が見られ、平年に比べ加賀地域で3日程度、能登地域で1日程度早いと予想される。

【出穂期】

ゆめみづほ 加賀：7月13日～18日（近年より3～4日程度早い）
能登：7月17日～21日（近年より4～5日程度早い）
能登ひかり 能登：7月21日～25日（近年並～3日程度早い）
コシヒカリ 加賀：7月25日～29日（平年より3日程度早い）
能登：7月31日～8月3日（平年より1日程度早い）

2. m²あたり茎数

コシヒカリは413本/m²、平年比106%（加賀地域106%、能登地域105%）と平年並である。

m²あたり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

品種	調査地	本数	平年比	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	413本	106%	104%	22.5本/株
	加賀	413本	106%	105%	22.4本/株
	能登	412本	105%	104%	22.6本/株

【病害虫の発生状況】

- 斑点米カメムシ類（飛翔性カメムシ類）の本田への侵入量が多い。
- 葉いもちが山間地を中心に各地で確認されている。
- 紋枯病の発生が散見される。

当面の対策

～間断通水の徹底で登熟向上～

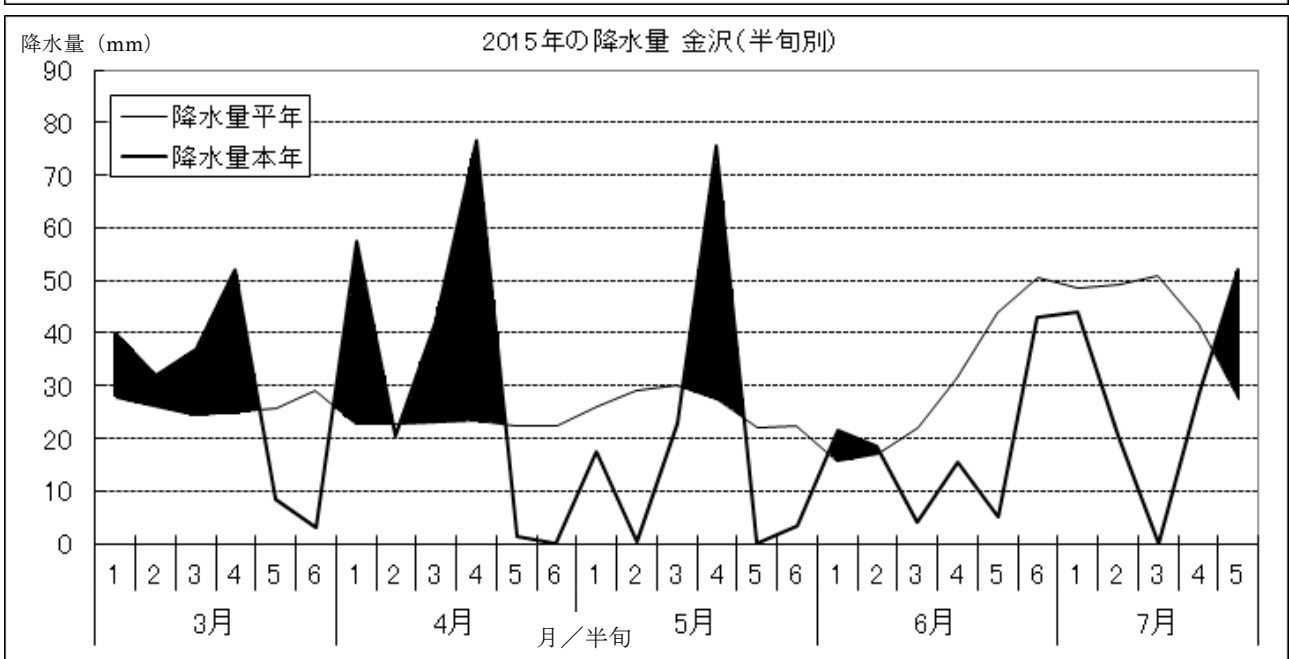
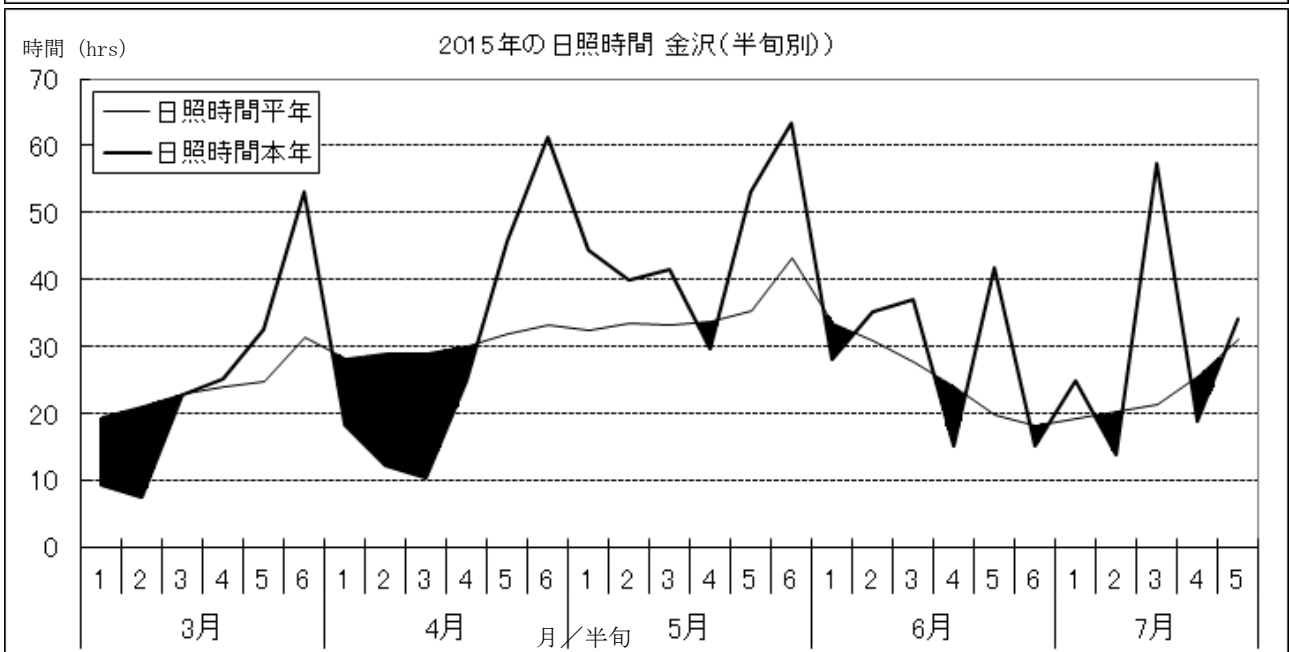
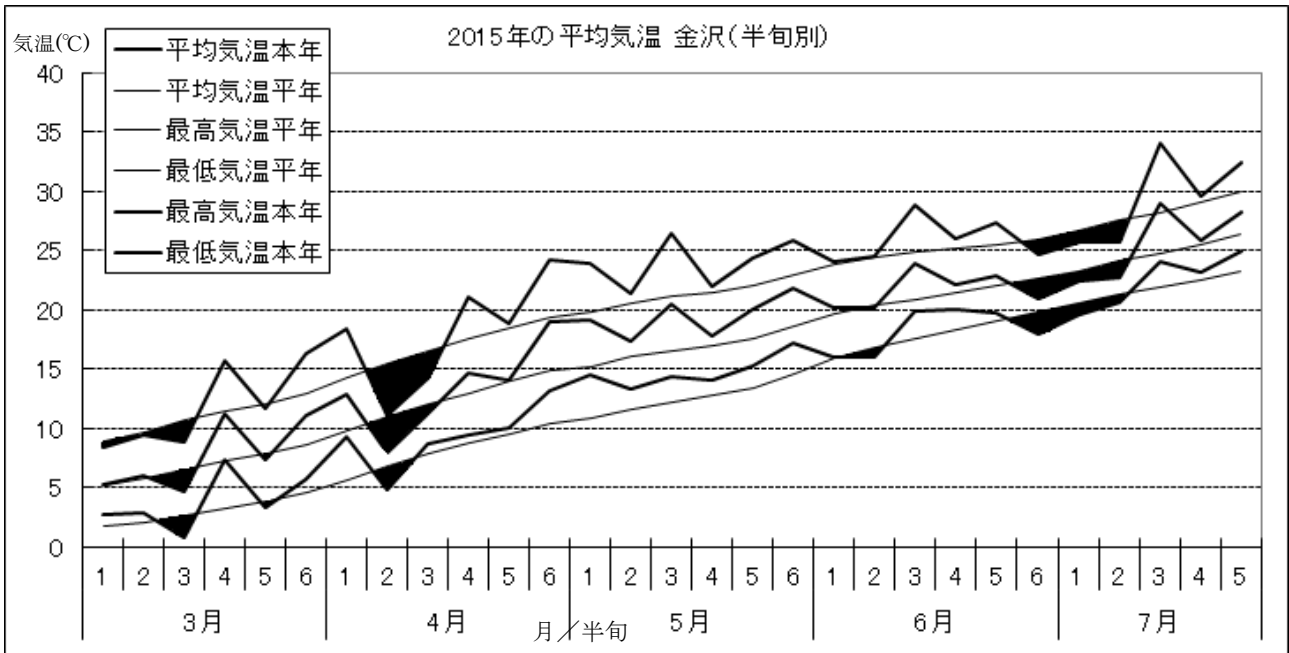
- 出穂後は登熟向上を図るため、間断通水（3～4日おきに通水）による飽水管理を刈り取り7日前まで行う。特に、登熟初中期（出穂後6～20日頃）に平均気温26～27℃以上の高温と水分不足が重なると、白未熟粒・胴割粒の発生を助長するので通水を徹底する。

なお、強風やフェーンが予想される場合は、あらかじめ入水し、稲体の活力低下を防止する。

- 高温時期の長期湛水は、根の機能低下をもたらすので行わない。

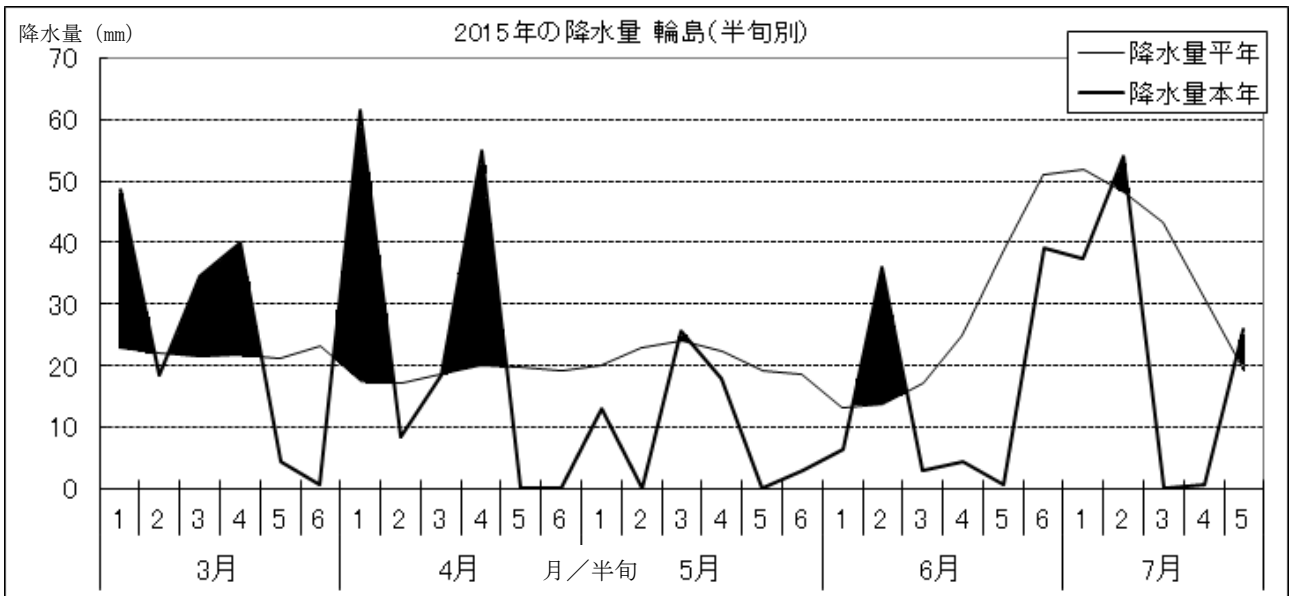
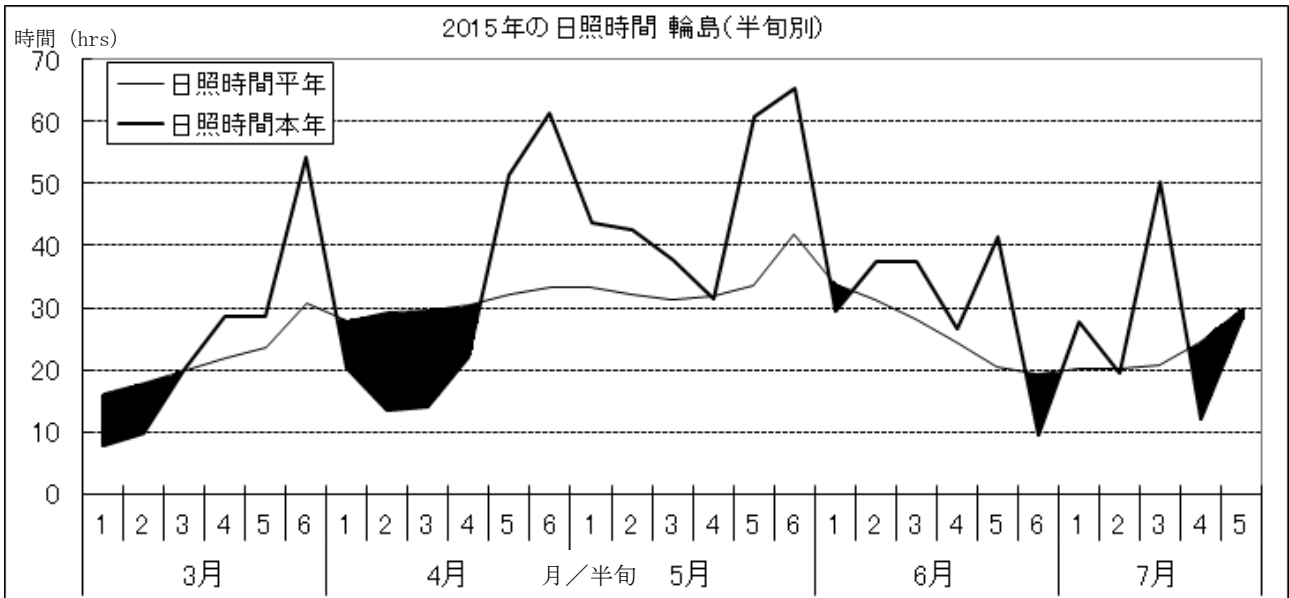
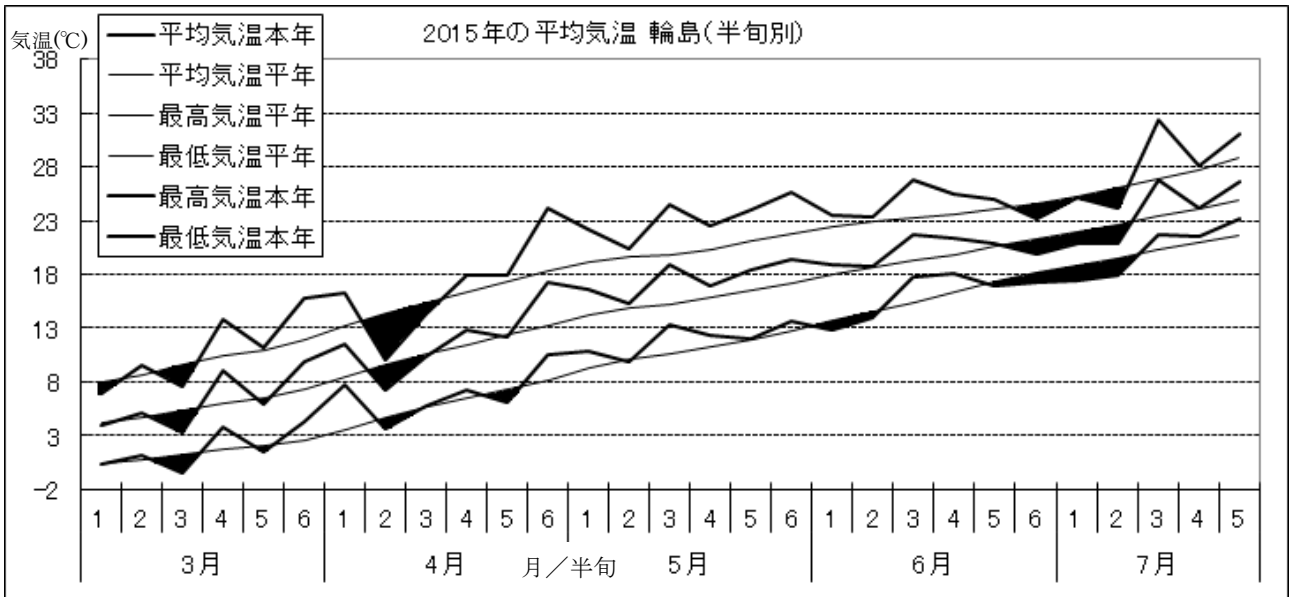
3. 用水をため池に依存している地域等では、計画的な水利用に努める。
4. 斑点米カメムシ類の本田への侵入が確認されており、高温・乾燥が続くと本田への侵入がさらに多くなると見込まれるので、斑点米の発生を防止するため防除を徹底する。防除は、早生や7月中に出穂するコシヒカリでは、出穂7～10日後と14～17日後の2回防除を徹底する。また8月以降に出穂する稲では、出穂7～10日後の防除を徹底する。
なお、防除後もカメムシ類の本田侵入が確認された場合は追加防除を実施する。
5. 今後の畦畔等の除草については、カメムシ類の本田侵入を助長するので原則行わない。但し、やむを得ず除草を行う場合は本田防除の直前に行うこと。
6. 穂いもちの発生を防止するため、出穂前後の基幹防除を必ず実施する。
7. 出穂期の遅い圃場（晩植、直播等）で、葉いもちの発生が認められた場合には直ちに防除を実施する。
8. コブノメイガについては、今後出穂を迎える直播、晩植ほ場を中心に巡回に努め、被害を認めたら直ちに防除を実施する。
9. 高温登熟年は、籾黄化の進みが早く、胴割粒が発生しやすいので、籾黄化率が80%から収穫を開始し、90%までに終える。早生品種は登熟積算気温930℃、中生品種は960℃を刈取り開始の目安とする。

気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢气象台）



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い